2025 年度　とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

東京都町田市忠生 2-7-5
幼保連携型認定こども園　町田自然幼稚園

＜活動のテーマ＞

光と影の変化を考えて

＜テーマの設定理由＞

光と影の不思議さと面白さに気づいた子どもたち。光と影の特性に触れながら、継続して探究していきたいと考えました。

＜環境の設定・準備＞

ライトテーブル、懐中電灯、プロジェクター、スクリーン、書画カメラ、カラーセロファン、画用紙、ストロー、段ボール、机、布、ペットボトル、絵の具

探究活動の実践
＜活動の内容＞

影の不思議

光の中に浮かぶ影や光に投影される色が変化することに気づく。

光の不思議さを感じる。

変わる影の大きさ

懐中電灯を近くしたり、遠くしたりすると影の大きさが変わることに気づく。

「画用紙で作ったぱくぱくさんを光に当てると大きくなるよ」

作って終わりではなく、更に遊びが広がります。

スクリーンに映る自分の影。
近くに寄ったり離れてみたり。

動物の積み木の影も面白い。

どう光を当てると影が変化するのか考えながら、動物の向きを変えてみます。

光あそびから生まれた遊び

光と影の特性に気づきを上手に生かし、楽しい遊びを

生み出しました。

「この影は何でしょうか」

白い布の後ろに立ち、「何のポーズでしょうか」

「この影はだれでしょうか」

とシルエットクイズに発展。

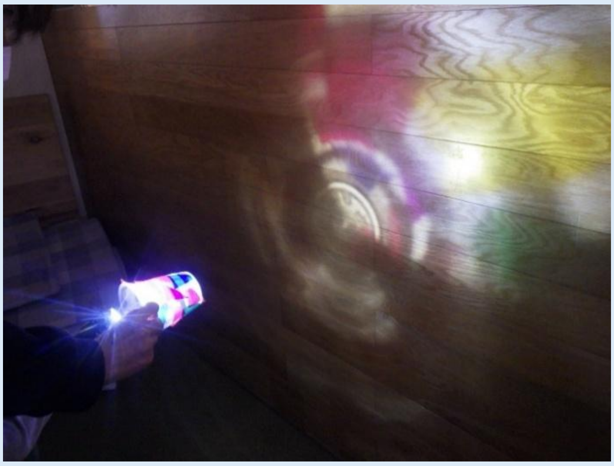
どうして？なんで？が広がる

室内だけでなく、太陽の光に当てても綺麗な色が見えます。
カラーセロファンを使って自分なりの彩りを作ったり、はさみで切って形作ったものを陽に当てても面白い。
色の混ざり合いの不思議、天気が曇りだと影遊びが出来ないことに新たに気づきました。

遊びの中でストローを使っていたとき、これを光に当てたらどうなるかな？
光あそびがすぐ思いつきます。
平面的、立体的、いろんな角度からストローで作ったものを光に当ててみる。
ここにこれをくっつけたらどう映るかなー？と改良を重ね、遊びが広がります。

光あそびの活動を通して、子どもたちは光の当たり方や距離によって影の大きさや形が変化することに気づき、試しながら確かめる姿が見られた。布やストローに加え、CD や水槽など様々な素材に光を当てることで、「どうなるだろう」という期待をもって繰り返し試行し、その都度新たな発見を楽しんでいました。

素材によって光の通り方や反射の仕方が異なることにも関心を広げ、光と影の不思議さや面白さを実感していきました。



さらに、近隣の結婚式場にてステンドガラスを見せていただく機会を得たことで、これまでの遊びの経験と実物とが結びつき、光が色や模様となって映し出される美しさに触れることができた。子どもたちは、遊びの中での気づきを基にしながら本物に出会うことで、より一層興味関心を深め、自ら考えたり試したりする探究的な姿へとつながっています。

＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

光あそびの活動を通して、子どもたちが自ら気づき、試し、発見を楽しむ姿を支えることの大切さを改めて感じた。光の当たり方や距離による影の変化に気づいた場面では、すぐに答えを伝えるのではなく、「どうしてだろう」「やってみようか」といった言葉がけを意識することで、子ども自身の探究心を引き出すことができたと考える。

また、布やストローにとどまらず、CD や水槽など様々な素材へと興味を広げていく姿から、環境構成の工夫が子どもの学びを豊かにすることを実感した。子どもたちの「これに光を当てたらどうなるだろう」という発想を受け止め、試せる環境を用意することの重要性を再認識した。

さらに、ステンドグラスという実物に触れる経験は、日々の遊びで得た気づきをより深める機会　となった。遊びと実体験をつなぐことで、子どもたちの理解や感動が一層広がることを学んだ。
今後も、子どもの気づきや発想を大切にしながら、主体的に関われる環境づくりと適切な援助を意識し、探究を深めていける保育を心がけていきたい。